

やすお
中島 康雄さん
(山形町)

○プロフィール

佐野市地域おこし協力隊。
京都府出身。イタリア・ミラノで広告代理店に勤務し帰国後フリーのアートディレクターとして広告や映像制作などを行いつつイベント制作なども行うマルチクリエイター

中山間地域の魅力を発信

中

島さんは、今年2月に佐野市地域おこし協力隊に就任されました。そして、山形町に移住したそうです。

2002年から3年間、イタリアのミラノでデザイナー、アートディレクターとして活動。その後帰国し、フリーで広告、CDジャケット、パッケージデザインなど数多くの作品を手掛けながら、イベント制作などを行うマルチクリエイターとして現在も活動中です。



中島さんは協力隊員として、平成30年4月に結成した地域活性化団体「閑援隊」の活動を通じて、閑馬地区を中心とした市内中山間地域の活性化に向けて奮闘しています。数多くの活動を実施する中、現在は甘茶作りを中心に活動しているそうです。甘茶はガクアジサイの葉を発酵ばい煎した、甘くておいしいお茶です。閑援隊で栽培を始めて日が浅い作物ですが、あまり知られていないからこそ、耕作放棄地を有効利用した魅力ある商品としての可能性が甘茶自体にあるそうです。



▲閑援隊の仲間と甘茶の挿し木

中島さんは、今後の甘茶作りについて、甘茶の栽培をしつつ収穫した甘茶を商品化してパッケージデザインや販売開拓をしたり、自ら動画の撮影や編集をして商品のPR動画を作って発信するなど、さまざまな活動を予定しているそうです。

中島さんに「活性化とは？」と質問すると「その地域で商品を作って収入を得ることができるよう、地域に根付いた産業を作り、毎日、安全で安心して生活できるようにすること。それをPRすることで、移住する人を増やしていきたい」と話していました。コロナ収束後は、地域の魅力を発信でき、現地での空気感を味わえるようなイベントをやりたいとのことでした。

(市民記者 尾島民江)

市長からのメッセージ

9月議会が閉会し、新型コロナウイルス感染症対策などを盛り込んだ補正予算が可決されました。小中義務教育学校、保育施設、児童館など、さまざまな施設への二酸化炭素濃度測定機器などの設置や学校行事の前など必要な時に検査を受けられる体制を整備します。また、コロナ関連以外にも、あさぬま、あづま保育園などへの電子・電気機器の雷被害防止のための工事も行い、併せて約1億2千万円の予算を確保しました。

その他、千葉県八街市の交通事故を受け、発生直後に通学路の安全対策について指示を出し、関係機関などと連携を図り、対応を進めております。ハード面では車道と路肩を明確に区別するカラー舗装工事の実施や、歩道がある道路で車両が誤って進入しないためのガードレールの設置についても、3900万円の予算を確保しました。その他、ソフト面では各学校に対し危険のある通学路の見直しなどを依頼しました。今後も通学路の安全対策を実施し、子どもたちが安全に安心して笑顔で登下校できる環境を作ってまいります。

台風シーズンを迎えています。令和元年東日本台風からの復旧工事については、全体の約95%となる886カ所の工事が完了しました。指定避難所の見直しやハザードマップの浸水想定エリアの見直しなど基本的な事項に加え、災害時に私たちが直接皆さまに呼び掛けを行う緊急放送の検討など、新たな取り組みも進めております。佐野市の防災力・減災力の強化に努めてまいりますので、市民の皆さまには、新型コロナウイルス対策に加え、災害への備えをお願いいたします。

金子 裕

今回の表紙 「常盤小学校におけるオンライン授業の様子」 令和3年9月7日撮影

臨時休業中の市立学校において、オンライン授業が実施されました。子どもたちは自宅からタブレットを使い授業を受け、熱心に先生の話聞いていました。



KOUHOU SANO
R3.10



移動スーパーが開始されました

9月6日(月)から、株式会社カスミによる移動スーパーが開始されました。

この取り組みは、佐野市との連携協定「買い物支援と見守り活動の推進に関する協定」に基づいて実施されています。

これまで、株式会社カスミの移動スーパーは、茨城県、千葉県内で各自治体との協定に基づき実施されてきましたが、栃木県内では最初の取り組みとなります。

この移動スーパーは、公民館や市営住宅、老人ホームなどを中心に、月曜日から金曜日まで、1日に7～9カ所を回りながら、商品の販売をしています。

9月6日(月)、デイサービスセンターケアパートナー佐野(吉水町)では、施設利用者の方など多くの方が買い物に利用していました。初めて移動スーパーを利用された方にお話を聞くと「その場で買い物ができて便利。スーパーに行く手間が省けた」などと話してくれました。

買い物支援と見守り活動の推進に関する協定では、移動販売をはじめとした買い物支援および見守り活動を実施することにより、買い物に困難を感じている市民の利便性の向上を図るとともに、安心して暮らせるまちづくりを推進していきます。

移動スーパーの詳しい販売場所などについては、市ホームページに運行スケジュールを掲載しています。

販売場所のお近く
にお住いの方はぜひ
ご利用ください。



▲運行スケジュール
はこちら



▲移動スーパーで買い物をしている様子



食べ物の味や性質、および食べ方などを
表す方言にもいろいろある

食べ物の味や性質には、いろいろあります。にがいのものもあればしょっぱいもの・辛いものもあります。これらの語はいずれも語末の音が変化して「エー」のように長音化します。たとえば、やわらかい食べ物はヤッケー、かたい食べ物はカテーというし、甘い物はアメー、塩辛い物はショッペー、辛い物はカレー、苦い物はニゲーなどといいます。

子どもはお菓子が大好きです。でも、落ち着きがなくあちこち動き回って、つまずいたり転んだりします。母親はこのようすを見て子供に向かい、クイッチラカス、クッチラカス、クッチラス、という方言を使って注意します。「食べこぼす」の方言として、もつともよく使われるのがクッコボスとクイッコボスです。

「エントシテ(座って)いた子が、もうタッタスル(立つて歩く)ようになったんだガネ。子どもって伸びるンガハエーね。ダケドネー(でもね)、食べながらアッチャコッチャ(あちこち)歩き回っちゃ(ては)、クッチラカスからいつだつてキガオケネ(目が離せない)ンだよね」

肉のかたまりのように、かたいものを噛み切ることを、方言ではクツキルとかクツチギルといいます。噛んでつぶすことは、クツチャブスとかクツツブスといいます。

「いのししの肉は、かたくつて簡単ニヤー、クツキレネー(噛み切れない)けど、よくクツチャブシテ(噛み砕いて)食べリヤー(れば)、けっこう味があつてンメーよ」

(市民記者 森下喜一)

